



■ 地域における人づくり実践事例

海を通じて子どもたちを育む

御前崎 渚の交番（御前崎市）

(運営法人)

一般社団法人御前崎スマイルプロジェクト

御前崎市御前崎 1565-2

問合せ ☎ 0548-23-9927

URL <http://omaezaki-nagisa-koban.com>



砂浜での授業



渚の交番とスタッフの方々

子ども達に海を体験して欲しい

静岡県の最南端に位置する御前崎市。磯遊びや海水浴など海を中心に自然を活かした観光が盛んなこの地には、年間約 200 万人が観光に訪れます。

この御前崎で「海とあなた 人と人 海と地域を結ぶ」をテーマに活動しているのが、3 年前に開所した「御前崎 渚の交番」です。

「渚の交番」では、海と周辺の安全を守るビーチパトロール、砂浜の環境を保全するビーチクリーン、子ども達を対象としたウインドサーフィン教室など、いろいろな事業を実施しています。

中でも特徴的な事業として、昨年度から始めた小学校での海洋体験学習があります。

余暇の過ごし方が多様化し、子どもたちが身近にある海に触れる機会が減っている現状を何とかしたいと考え、市の教育委員会と協議し、「渚の交番」のスタッフが講師となり、今年度は市内 3 校、延べ 4 学年の児童を対象に海洋体験学習を実施しました。



御前崎スマイルプロジェクトの石原理事長は、「身近にある素晴らしい海に触れ、海の楽しさ、怖さを子どもたちに感じて欲しい」と話していました。

海を感じ、海を学ぶ

取材当日は、御前崎小学校の 4 年生が学区内にあるアカウミガメの産卵場所となる砂浜で、今年 2 回目の授業を行いました。

今年 1 回目の授業でマリンアクティビティを実施し、海を感じ楽しんだ子どもたち。

2 回目の授業では、砂浜の漂着物を集めて観察し、海に捨てられた人工物が及ぼす影響について学んだり、砂浜や海藻が減少している現場を実際に見て、御前崎の海の現状を体感したりしていました。

御前崎小では、9 月に孵化したアカウミガメを 5 年生が学校で育てて、6 年生の夏に海に返しており、来年、アカウミガメを育てることとなる 4 年生は、真剣な表情で講師の話を聴き、メモを取っていました。

御前崎の素晴らしい海を活用した学習は、ここでしかない取組であり、この取組が地域に根付くとともに、もっと多くの子どもたち、大人たちに広がって欲しいと感じました。(瀧)



講師の川口さん(写真左)は、授業の最後に「海を守るために、どうしたらいいか。自分なりの答えを見つけて欲しい。」と子どもたちに語り掛けました。

■ 地域における人づくり実践事例

地域で家庭教育力を高める！

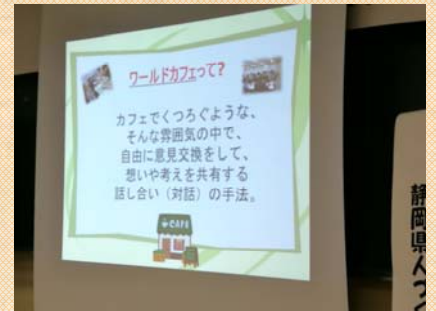
川根本町家庭教育学級 (川根本町)

川根本町教育委員会
社会教育課

問合せ ☎ 0547-58-7080



楽しみながら子育てについて学びます



ワールドカフェを実施しました

カフェのようにくつろぎながら

県の人づくり推進員は、年間を通して学校や公民館等から人づくりに関する講演会の講師を依頼されていますが、今回は、通常の講演会とは少し異なる学習会での推進員の活躍を紹介します。

川根本町では、町内の幼稚園の保護者と小中学校1年生の保護者が、家庭教育力のさらなる向上と保護者同士のネットワークを培うことを目的に、家庭教育学級を組織しています。

この家庭教育学級では、年間を通じて継続的に家庭教育に関する学習会を開催しており、9月には、県の人づくり推進員である小山弘子さん（静岡市）を講師に迎え、合同学習会でワールドカフェを実施しました。

ワールドカフェとは、カフェでくつろぐようなリラックスできる雰囲気の中で、少人数のグループで自由に意見を交換し、思いや考え方をみんなで共有する話し合いの手法です。

ワールドカフェという言葉は初めて聞き、どんなことをするのだろうと戸惑う方もいましたが、会の進行役（ファシリテーター）をする小山さんの分かりやすい説明と的確な進行により、だんだんと表情が柔らかくなり、次第に手振り身振りを交えて話すようになりました。



小山さんは、進め方を説明するだけでなく、各グループの進捗が上手く進むように見回ります。子育てで悩んでいること、困っていることを話していても、参加者は常にリラックスして、笑顔なのが印象的でした。

悩みを共有することの大切さ

今回の学習会は、テーマを「子育て世代でつながろう！」とし、各グループ内で、子育てで悩んでいること、困っていることについて話し合いました。

各グループでは、「ネット・スマートフォンの弊害」「早寝早起きができない」「子どもの個性や反抗期」など様々な話題が飛び交っていました。

会場を回って、参加者が書き込んだ模造紙の記載を見ると、同じようなことで、悩んだり、困ったりしている様子がよくわかりました。

今回の学習会は、決して急いで解決策を探したり、正しい答えを導き出したりすることを目的としたものではありません。

自分の思いや考えをグループ内のメンバーに伝えて、互いの意見を尊重し、思いや考え方を共有することで、他の人も同じ悩みを抱えていることに気づき、心を軽くすることを目的としています。

途中で、グループのメンバーが何度も変わるので、その都度、視点も変わり新たな気づきが生まれ、話がより深まっているのが印象的でした。

リラックスした雰囲気の中で、各自が主体的に話し手役や聞き手役になる会の中でこそ、参加者それぞれが抱える課題の解決策が自然と生まれるのかもしれない。（伊熊）



一つのグループが4~5人で、参加者全員が自分の思いや考え方を発言しやすくなっています。また、10分程度話した後、1人（ホスト）を残し、他の人（旅人）は次のテーブルに移動します。会場全体にとっても活気がありました。

■ 地域における人づくり実践事例



ボランティアのみなさん



社会のルール・マナーの大切を伝える
本間推進員（中央）

大切なことを学べる場！

ワク☆ドキサロン（長泉町）

代表
人づくり推進員
本間 不二子



子どもの居場所をつくろう！

県の人づくり推進員である本間不二子さん（長泉町）が中心となり、学校の長期休みに地域の小中学生と一緒に学べる場で、みんなの居場所となる「ワク☆ドキサロン」をつくりました。

今年の夏休みは、長泉町福祉会館の一室を会場に11日間開催しました。

このサロンの特徴は、学年関係なく同じ空間で過ごしているということです。最初の頃は、小学生と中学生は分けられていましたが、宿題のわからないところを、自然と上の学年の子が見るようになり、サロンの雰囲気が良くなって一緒にしたそうです。

子ども達は「家でゴロゴロしているより、いろいろなことを教えてくれる大人がいる、このサロンのほうが楽しい」と笑顔で話してくれました。ここには、学校とはまた違った子どもたちの居場所と学びの空間がありました。



この日は、本間さんが朝から作ってくれた夏野菜たっぷりのカレーやサラダがお昼に出されていました。

みんなで食べる食事はとてもおいしく、笑顔が絶えませんでした。



「来た時よりも、美しく！」

掃除をする前に、どうして掃除をするのかをしっかり教えてから始めます。子ども達は、真剣に掃除をしていました。

子どもを見守る

子どもたちは自由に学び・遊んでおり、ボランティアの方々はその見守り役をしています。

ただ、このサロンでは、単に見守るのではなく、社会のルールやマナーにはしっかり口を出す“おせっかい”役をしてくれます。

また、みんなで何か作業をするときには、「なぜそうすることが必要なのか」を必ず説明してくれます。

単に居場所をつくるだけでなく、子どもたちが成長していくうえで必要なことを少しでも学んでいって欲しいという、ボランティアの方々の思いを感じました。

今度はボランティアとして活躍

以前このサロンにお世話になった高校生が、今回はボランティアの見守り役として関わっていました。

話を聞いてみると、「ここで居場所をつくってもらったので今回は、大人へのお礼としてボランティアをしています。」と言っていました。

このような活動は、目に見えるような形ではっきりとした成果を出すことは無いのかもしれませんが。

しかし、学ばせてもらったことに感謝して、お世話になった大人に、恩返ししたいという行動が何よりの成果ではないのでしょうか。（伊熊）



以前にサロンにお世話になった高校生（左）です。今回はボランティアの一員として参加しました。よく宿題を見たり、一緒に遊んだりしていました。ボランティアをしてみても「将来は、人を育てる職業に就きたい」と話してくれました。

■ 県内の活動紹介

家庭教育はすべての教育の出発点！

静岡県家庭教育学会

会長 福永 博文

【事務局】

浜松市西区館山寺町 136

社会福祉法人和光会「あさぎり」内

問合せ ☎ 053-487-0229



親が子どもの気持ちをすべて汲み取るのは難しいですね（リーフレット）



学会総会、セミナーには、様々な分野の方々が集まりました

設立から 20 年

県内で、子どもたちとその家族の問題に関わる方々で構成していた研究会を母体として、平成 10 年に設立された「静岡県家庭教育学会」は、今年で設立から 20 年を迎えました。

学会が実施する大きな行事として年 1 回開催される「学会セミナー」が、今年は設立 20 周年記念として、10 月 22 日（日）に磐田市内で開催されました。

当日は、台風 21 号の接近で、激しい風雨が朝から時折吹き付けるあいにくの気象状況でしたが、学会の会員だけでなく会員以外の方も含め、保育士や民生・児童委員、行政関係者など、100 名近い方々が会場に集まりました。

午前中は、福永博文会長による基調講演「すべての教育の出発点として家庭教育を見直そう」があり、平成以降の約 30 年間で 5 年刻みにして、「児童・青少年」、「家庭・家族」、「教育・学校」の切り口で、社会情勢の変化を背景に、各時代に起こった事件や問題を織り交ぜて、分かりやすい説明がありました。



子どもたちを家庭で愛情を持って一人前の自立（律）した人間に育てることが必要であり、時代とともに子どもたちを取り巻く環境は変わっても、変わらずに大事なのが家庭教育であるとのメッセージが、会長から伝えられました。

テーマを掘り下げて研究

午後は、3つの分科会（第1：「家庭の変貌と育児の意識の変化について」、第2：「現在の小中学校の現状と入学前にやっておきたいこと」、第3：「発達障害のある子どもを持つ保護者と共に子育てを考える」）に分かれ、それぞれのテーマで参加者が研究を深めました。

このうち、第2分科会では、静岡市のNPO法人「かっぱらば編集室」理事長の川島多美子さんが話題提供者となり、御自身のスクールカウンセラーの活動も踏まえ、子ども達が学校で受けているストレスの分析や、これに対して親がとるべき対応等について、わかりやすく解説しました。



川島さんは、人とのやりとりを“ストローク”と表現し、子どもに同じ内容を伝えるのにも、肯定的ストロークが必要で、それに満たされている子どもは、否定的ストロークを受け流し、耐える力ができるというまとめが印象的でした。

同学会では、保育所や社会福祉法人の役員等、様々な面で家庭教育に関わっている方々が役員となり、実践的な研究・調査や研修会を実施しているとのことですので、御自身の業務の参考にしたい方、活動に興味がある方は、是非一度活動に参加されてみてはいかがでしょうか。（鈴木）